

# 店舗・商品を通じた 環境負荷軽減

事業活動を通じて発生するCO<sub>2</sub>の92%が店舗からの排出です。その影響を十分に認識し、店舗への太陽光発電パネル、電気自動車急速充電器の設置など、店舗を活用したCO<sub>2</sub>削減に積極的に取り組んでいます。また、最先端技術の省エネ型店舗の開発と実証実験に取り組み、店舗のさらなる低炭素化につなげています。商品においては環境配慮型容器の利用促進に取り組み、お客さま、地域社会に配慮し、循環型社会の構築に取り組んでいます。

### Contents

- ・食品リサイクルの取り組み
- ・レジ袋削減への取り組み
- ・容器包装における取り組み
- ・省エネ型店舗(環境配慮型店舗)での取り組み



## 食品リサイクルの取り組み

東京都内、神奈川県内の店舗と中食の製造工場から排出される食品廃棄物を回収し、養豚用の飼料として再生利用する取り組みを2008年より開始。その飼料で飼育された豚を一部の弁当や惣菜パンの原料として使用し、販売する食品リサイクルを行う5件の再生利用事業計画が認定されています。その他、食品廃棄物の飼料・肥料化を進めており、2018年2月末現在、全国約3,600店舗で実施しています。

さらに、ファミチキなどを揚げた油を回収し、養鶏用飼料の添加剤やインク、石鹸などに100%リサイクル。その一部は「薬用ハンドソープ」として店舗で使用され、循環型リサイクルを実現しています。



回収した油をリサイクルし、店舗用薬用ハンドソープに

ファミリーマート再生利用事業計画  
(食品リサイクルループ)  
5件(2018年9月末現在)

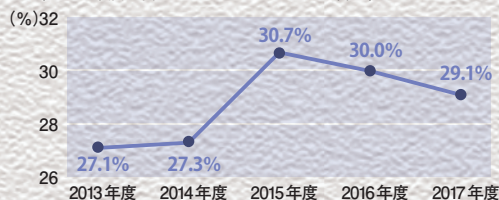


## レジ袋削減への取り組み

レジでのお声かけ、ポスター掲示によるお客さまの啓発に加え、商品の大きさに応じた適正サイズのレジ袋使用やレジ袋そのものを薄くすることで石油資源使用量削減を進めています。2017年度のレジ袋辞退率は29.1%となりました。

### ●レジ袋辞退率の推移

(2016年度以降はサークルK・サンクス含む)



レジ袋削減啓発ポスター

## 容器包装における取り組み

### ガス置換包装への切り替え

お惣菜シリーズ「お母さん食堂」の商品の一部に、通常のパッケージより鮮度を保つことが可能になる「ガス置換包装」を採用しています。

ガス置換包装とは、容器内に二酸化炭素と窒素を注入して酸化を抑える仕組みです。

新たな技術により、お惣菜のおいしさを損なわず、かつ添加物を増やすことなく、消費期限を延長することができました。

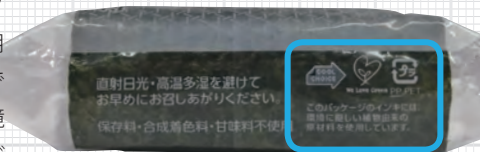
また、プラスチックのふたではなくトップシールに変更することにより、同容量の惣菜容器と比較し、プラスチック原料を年間33.6t、CO<sub>2</sub>換算で年間153.7t（導入時の試算）削減しています。



「お母さん食堂」シリーズは、時短・簡単・便利な商品として家庭の夕食ニーズに対応

### 植物由来インクの使用

おむすびや手巻寿司、サンドイッチ、パンなどのパッケージに使用されている印刷インクを、ライスインク、ボタニカルインク、ベジタブルインクなどの植物由来原料のものに順次切り替えています。従来のインクと比べ、石油の利用を抑え、CO<sub>2</sub>換算で約100 t削減。環境負荷低減につながっています。



商品パッケージには、低炭素型の商品であることを表示



## バイオマスプラスチック容器の導入

定番サラダの容器に植物由来のバイオマスプラスチック (PLA) を使用しています。PLA 容器は、原料の植物が光合成する時に使うCO<sub>2</sub>と容器を処分する時のCO<sub>2</sub>がほぼ同じなため、実質的にこの容器を使用することによってCO<sub>2</sub>の量が増えることはありません。

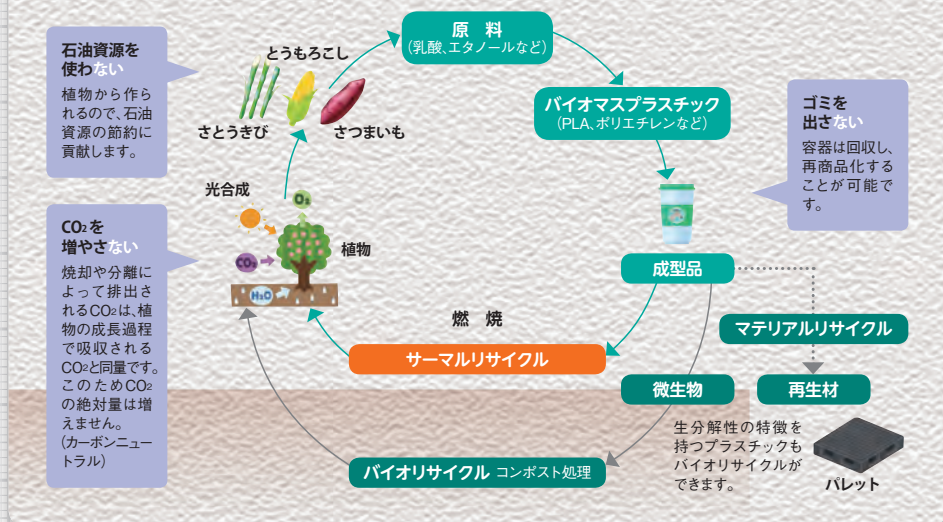
これにより2017年度は1年間で約2,503tのCO<sub>2</sub>を抑制しました。

現在、PLAの国内流通量の2割をファミリーマートが使用しており、小売業でナンバーワンの使用実績となっています。

また、これに加えて、使用済みペットボトルを原料とした再生PET素材を冷やし麺の容器に使用するなど、さらなるCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。



## バイオマスプラスチックの循環



## サイドシュリンク包装の拡大

2014年より容器とふたの結合部分にのみフィルムを装着する「サイドシュリンク包装」を導入し、2015年に全面的に切り替えました。これにより、プラスチック原料は約550t削減、CO<sub>2</sub>は約1,975t削減しています(従来ラップフィルム対比)。



## 省エネ型店舗(環境配慮型店舗)での取り組み

気候変動対策として、売上高当たりのエネルギー消費量(店舗の電気使用量)を、2020年までに10%削減(2010年比)することを目指し、省エネ機器への切り替えを積極的に進めるとともに、最新技術による省エネ型店舗モデルの開発に取り組んでいます。



実証実験を行っている省エネ型店舗

### 電力使用量削減を目指し——

2017年度に着手した省エネ型店舗の実証実験では、店舗の柱を鉄骨から木材に置き換えCO<sub>2</sub>排出量を削減するとともに、ファサード看板をよりスマートなイメージに変更しました。

他にも空調・換気・冷蔵ケース機器をインターネットに接続し、監視することによって電気使用量削減を行っています。また、駐車場に使うアスファルトの低温施工もあわせて行っています。

### 2018年1月から順次、新店に高効率LED照明を導入

そうした実証実験で、より少ない電気量で明るく照らすことができる「高効率LED照明」が、従来のものと比較し電気使用量8%削減の効

果を得たことから、2018年1月から順次、新店の店内照明に高効率LED照明を導入しています。

## 2018年度、新たに5店舗開店

2018年度は、省エネ型店舗を新たに5店舗開店し、継続して実証実験に取り組んでいます。

新たな試みとして、自然冷媒を使用した省エネタイプのオープンケース導入や、建物の木造化による高气密・高断熱化を推進することにより、さらなる省エネを目指します。

### ■省エネ型店舗での主な実証実験の内容

- ・木造(環境に配慮、CO<sub>2</sub>削減)
- ・高气密・高断熱(冷暖房負荷削減)
- ・全熱交換換気システム(冷暖房負荷削減)
- ・冷蔵ケース自然冷媒採用(電気使用量削減)
- ・ドリンクケース・平型ケース等の省エネ什器(電気使用量削減)



高効率LED照明



壁断熱パネル



梁間断熱

## Voice

最先端の省エネ技術で電気使用量25%削減を目指します。

建設部 部長 笠田 弘

ファミリーマートの店舗は、最先端の技術を取り入れた省エネルギー店舗に進化しています。

2017年度は、店舗で使用する電気使用量の20%削減(2016年度比)を目指し、省エネ型店舗を3店舗開店しました。

2018年度も省エネ型店舗を5店舗開店し、電気使用量25%削減を目指して実証実験を進めています。

今後は、環境に負荷がかかるフロンガスを使わず自然冷媒を使用して冷やすオープ

ンケースや、木造店舗の拡大を進めることなどを複合的に推進しながら、省エネ型店舗モデルを構築し、拡大展開していきます。また、店舗オペレーションの負荷削減についてもあわせて推進してまいります。



省エネ型店舗の開発に取り組むメンバー